

花王は、豊かな生活文化の実現とよりよい持続可能な社会に向けて社会貢献活動を推進しています。

事業で直接アプローチできない課題については、地域社会やNGO／NPOと連携しながら、長期視点で取り組んでいます。また、社会との接点をつくり、社員の学びの場をつくるため社員参加型の活動や、モノづくりの基盤を支える文化の発展のためのメセナ支援、(財)花王芸術・科学財団による活動も行なっています。

社会的課題と花王が提供する価値

認識している社会的課題

清潔・衛生や健康は、人の暮らしの基盤ですが、経済格差、ジェンダーなどさまざまな格差がもたらす不平等から、現代の進歩に見合ったサービスが享受できていない人たちが数多く存在します。また、先進国、新興国、開発途上国、それぞれの社会で抱える課題は違って、毎日が充実し、心身が満たされるところ豊かに暮らせる社会がより一層求められています。さらには、気候変動やごみ問題など、私たちの暮らしを支える環境に対する問題も、国際社会全体で取り組むべき喫緊の課題となっています。

これら社会的課題の解決に向けて、企業はその事業活動を通じて貢献するとともに、企業の強みを活かした技術支援、啓発活動や寄付などを通じた包括的な視点での取り組みを行なうことがますます重要になってきています。

花王が提供する価値

花王は事業活動を通じて社会のサステナビリティに貢献するとともに、事業(製品)では直接アプローチできない場合も、生活者の誰もがこころ豊かで快適な生活を実現でき

るよう、広く社会に貢献していきます。

自社の持つリソースや強みを活かした、清潔・美・健康の事業領域において、また、地球環境に関わる課題において、世界中の誰もがこころ豊かで快適な生活が実現できるよう、啓発活動や技術支援、寄付などの、さまざまな支援を行なっていきます。

また、多様なコミュニティが抱える社会的課題の解決や地域活性化への貢献、メセナなど、豊かな生活文化の発展に関わる支援を行なっていきます。

「2030年のありたい姿」の実現に関わるリスク

ステークホルダーに対する適切な配慮の欠如やエンゲージメントの不在は、顧客や社員をはじめとするすべてのステークホルダーからの信頼を失うだけでなく、花王の将来的なブランド価値の毀損も招くおそれがあります。

「2030年のありたい姿」の実現に関わる機会

花王は、消費財メーカーとして常に生活者に寄り添う事業活動を行ってきました。それは個々の生活者が、利便性や満足度の向上だけでなく、よりよい社会に向けて正しい選択をし、とりまく社会も同様であってほしい、という

思いに応える活動でもあります。

花王は、衛生や水、健康、生活の質の向上、ごみ問題など、暮らしに身近な社会課題に取り組み、常に生活者や社会の立場からそれらの活動の意義を考えています。その結果世界中の人々のこころ豊かで持続可能な生活(Kirei Lifestyle)の実現に向けて、毎日の生活になくてはならない存在になりたいと考えています。

貢献するSDGs



社会貢献活動 102-43,103-2,404-2

方針

花王は、清潔・美・健康の事業領域や、地球環境、多様なコミュニティに関わる社会課題に対し、自社の持つリソースや強みを活かした取り組みを通じて、世界中の生活者の誰もがこころ豊かで持続可能な生活(Kirei Lifestyle)を実現できる社会をめざして、社会貢献活動を行ないます。

社会貢献活動方針

- 次世代の育成に役立つ活動を行ないます。
- 地域の社会・文化の発展に貢献することを目指した活動を行ないます。
- 持続可能な社会に向けて、環境を守り育てる活動を行ないます。
- 社会的支援として、バリアフリー社会を推進する活動を行ないます。
- 花王の持つ資源を有効に活かせる活動を行ないます。
- 一人ひとりの社員が良き市民として、社会的活動に参加できるような風土をつくります。

教育と浸透

花王は、世界中の人々がKirei Lifestyleを実現するためには、生活者の共感を得て、行動変容を促すことが大切だと考えています。

その実現をめざして、モノづくりや啓発活動などを行なう花王社員は、広く社会や多様な生活者を知り、視野や創造力を広げ、また自ら実践することが大切だと考えています。花王はさまざまな場面で、社会貢献活動の情報共有やボランティア活動などへの参加の機会を提供しています。

ステークホルダーとの協働／エンゲージメント

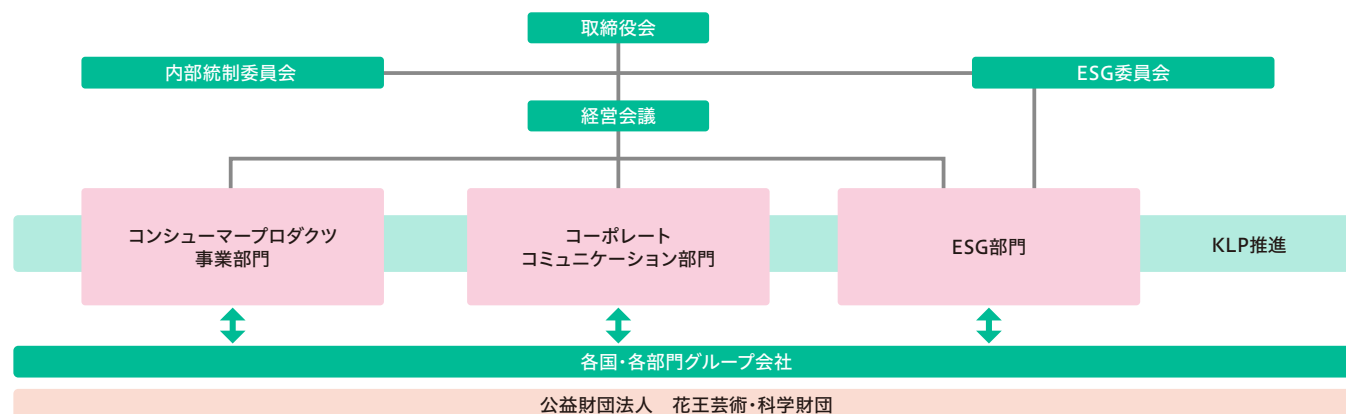
複雑化する社会からの要請をより深く理解し、世界中の人々がKirei Lifestyleを実現するには、さまざまなステークホルダーとの対話と協働が不可欠であり、連携により社会課題に対してより大きなインパクトがもたらせると考えています。花王の社会貢献活動は、NGO／NPO、国連機関、イニシアティブなど、多くのステークホルダーと協働で実施しています。

また、生活者にできるだけ広く効果的にKirei Lifestyleを普及させるために、行政・自治体、学校などと連携した取り組みも行なっています。

体制

花王のESGビジョンであるKirei Lifestyleの実現のため、ESG部門が中心となり、コーポレートコミュニケーション部門、コンシューマープロダクツ事業部門、その他の関連部門や日本・グローバルの各社と連携して、取り組みを進めています。活動概要や活動費などは、年に1回、コーポレートコミュニケーション部門統括が取締役会で報告しています。

社会貢献活動推進体制



※2019年12月現在

社会貢献活動 103-2,103-3,203-1

中長期目標と実績

中長期目標

社会貢献活動では、清潔・美・健康の事業領域と環境に関わる分野を中心に、事業では直接アプローチできない場合でも、生活者の誰もがこころ豊かで快適な生活を実現できるよう、広く社会に貢献していきます。

また、社員が社会貢献活動に参加し、社会との接点をつくり視野を広げることで、“よきモノづくり”に活かすことをめざします。

清潔・衛生習慣の定着

①ベトナム学校衛生プロジェクト：

2016-2020年の5年間で60校35,000人への支援を目標

②ベトナムにおける病院内の感染管理・衛生環境の向上：
ハノイ医科大学病院での感染管理・衛生環境の向上をめざした取り組みを実施。2018年からの5年間で他病院へも展開

③衛生奨学金制度：

大学院修士課程で食品衛生・衛生管理を学ぶベトナムからの留学生1名に奨学金支援。2018年からの6年間で3名を支援

④インドネシア月経衛生啓発：

2018年から2020年までの3年間で12,000人への啓発と2,500人の行動変容

QOLの向上

ピンクリボンキャンペーンを通じたがん予防啓発

・中高生に向けたがん教育プロジェクトの支援

・商品や社内プログラムを通じたがん教育プロジェクトへの寄付の実施

生活者のサステナブルなライフスタイル推進に向けた環境コミュニケーションの実施

科学技術を担う人財の育成

高校生科学技術チャレンジ(JSEC)：毎年3校最大9名の高校生を支援

コミュニティへの参画と課題解決に向けた支援

①若手社会起業家育成支援：毎年3団体を支援

②共生社会に向けた理解促進：ボッチャ競技の普及拡大の推進

社会的活動への社員参加の推進

①グループ社員による社会的支援を目的としたクラブ組織「ハートポケット倶楽部」の運営

②イントラネット等による社員参加型活動の情報発信強化

中長期目標を達成することにより期待できること

事業インパクト

エシカルな消費行動が拡大する中、目標とする活動の確実な推進と社外への継続的なコミュニケーションにより、顧客からの信頼を獲得することで、結果として長期的なロイヤル顧客の獲得につながることを期待しています。

社会的インパクト

衛生・清潔の正しい生活習慣の定着により、支援するコミュニティの衛生状況の改善や中長期的な生活の質の向上を期待しています。また、将来の科学技術を担う人財やコミュニティを活性化させる若手社会起業家の育成の支援、生活者への環境コミュニケーションの実施は、誰もがこころ豊かで快適なサステナブルなライフスタイルを実現できる社会に向けた原動力になっていくと考えています。

また、社会的活動への社員参加を促すことで、社員の創造性を活性化し、より革新的で価値の高い“よきモノづくり”へ活かされることを期待しています。

2019年の実績

1. 清潔・衛生習慣の定着

①ベトナム学校衛生プロジェクト

- ・アンザン省の22校の衛生設備の改善
- ・ディエンビエン省の1校の衛生設備を新設
- ・ディエンビエン省の4校と1コミュニティの水供給設備2基設置
- ・コミュニティリーダーによる啓発セッションを38村で実施
- ・ディエンビエン省の22校に370個のセラミックフィルター付浄水器を支援

②ベトナムにおける病院内の感染管理・衛生環境の向上

- ・ハノイ医科大学からの視察を受け入れ日本の感染管理の取り組みを紹介
- ・ハノイ医科大学病院でのスタッフの手指衛生の実態モニタリングと研修を実施

③衛生奨学金制度

- ・2018年10月より留学生を日本の大学院修士課程で受け入れ

④インドネシア月経衛生啓発

- ・中学生向けの月経衛生教育冊子を発行
- ・タンゲラン県40校の校長および学校保健の教員80名、県行政職員計17名に、学校での月経衛生教育の必要性や冊子活用の研修を実施(3回)
- ・メンターによる研修を2回実施(7、8年生を教える教員と保健教員、学校カウンセラー計200名対象)
- ・5月28日の世界月経衛生の日の啓発促進イベントに参加
- ・小学生向けの月経衛生教育冊子をイスラム校向けに改訂

⑤手洗い啓発

●日本

- ・手洗い講座:全国33校、約2,244人の児童・生徒を対象に啓発実施(出張授業全体では54校、3,702人が受講)
- ・社員のべ189人が講師として参加(出張授業全体では338人)
- ・教材提供156件(全体で465件)

●台湾、インドネシア

- ・111千人の児童に手洗い啓発実施

⑥初経教育

●日本

- ・約745千人の女子小学生に初経セット配布

●インドネシア、ベトナム、タイ、マレーシア、台湾、香港、中国

- ・約388千人の女子小中学生に初経セット配布

2. QOLの向上

ピンクリボンキャンペーン(グローバル)

- ・中高生に向けたがん教育プロジェクトの支援
- ・10月~11月に、計9カ国・地域で化粧品カウンセリングコーナーの美容部員や社員が啓発活動を実施
- ・特設ウェブサイト開設による情報提供
- ・製品購入数に応じた寄付
- ・啓発イベントへの協賛:ピンクリボンウオーク(東京)
- ・社員のピンクリボンバッジ着用、イントラネットでの社員啓発
- ・社員参加型の寄付プログラム:フォト募金

3. 生活者のサステナブルなライフスタイル推進に向けた環境コミュニケーションの実施

- ・第10回花王国際子ども環境絵画コンテストの実施(16,552点)、入賞作品の展示活動(50カ所超)、ワークショップの新規開発
- ・体験型環境教育プログラムの実施と拡大をめざした活動(講演やESDネットワークへの参画など)
- ・未来洗浄研究会でのセミナー開催(12月)

4. 科学技術を担う人財の育成

高校生科学技術チャレンジ(JSEC)への協賛

- ・JSEC2018受賞校を招きスタディツアーを開催(3月)
- ・JSEC2019に特別協賛し、花王賞と花王特別奨励賞を3校8人の高校生に贈呈(12月)

5. コミュニティへの参画と課題解決に向けた支援

①若手社会起業家育成支援(日本)

- ・3団体への支援を決定。事業成長のための機会を提供
- ・支援する社会起業家と花王社員との意見交換会を実施(11月)

②共生社会に向けた理解促進(日本)

- ・ボッチャ競技の普及拡大の推進:社内でのボッチャ体験会の実施(2回、のべ82人の社員が参加)
- ・ボッチャ競技の理解に向けた展示を茅場町、すみだの2事業場で実施

6. 社会的活動への社員参加の推進

①花王ハートポケット倶楽部(日本)

- ・会員数3,463名(2019年12月20日現在)
- ・寄付件数47件 / 寄付金額7,248,400円
※緊急災害支援として実施した令和元年東日本台風被害に対する寄付50万円を含む
- ・活動レポート4,000部発行(社内向け活動報告書、年1回発行)

②イントラネットなどで活動や社員参加型イベントの情報提供

- ・2019年度90件
- ・社員参加型のイベント企画:東日本大震災の被災地ボランティア、花王社員の寄付組織「花王ハートポケット倶楽部」を通じたボランティア活動、事業場地域での地域貢献活動など

7. 社会貢献活動費実績

花王の社会貢献活動を把握するため、国内外の関係会社、事業場、関連部門に、活動調査を実施。2019年の社会貢献活動費は、花王全体で、10億5,600万円(寄付金2億5,500万円、活動費8億100万円)となりました。



→サステナビリティサイト> Corporate Citizenship Activities
www.kao.com/jp/corporate/sustainability/society/

具体的な取り組み

快適な暮らしを自分らしく送るために

ピンクリボンキャンペーンを通じてがん教育を支援 QOLの向上

2007年から、毎年10月、11月の2カ月間、「花王グループピンクリボンキャンペーン」を実施しています。期間中は「あなたと、あなたの大切な人のために」をスローガンに、乳がんの早期発見の啓発のため、さまざまな取り組みを展開しています。

主な取り組みの一つとして、2019年は認定NPO法人乳房健康研究会主催の「ピンクリボンアドバイザーによるがん教育プロジェクト」を2018年に引き続き支援。中学校・高校でのがん教育を実施するもので、日本人の2人に1人ががんにかかる中、生徒たちの健康意識の向上や、その保護者世代への影響も期待されています。

2019年はこのほかに、化粧品ブランド「KANEBO」にて寄付付き商品を発売。2013年から継続している取り組みで、キャンペーン期間中、対象商品1個購入につき100円をブランドから上記がん教育プロジェクトへ寄付しました。また、生理用品ブランド「ロリエ」からはピンクリボンをあしらった限定パッケージの商品の発売や、クリック募金などを通じた寄付を実施。こちらもがん教育プロジェクトへ寄付しました。

ほかにも、一部化粧品店頭での啓発活動や、ピンクリボンのウォーキングイベントへの協賛など、少しでも多くの方にメッセージを届けるために積極的に活動しています。



ピンクリボンアドバイザーによる講話



ロリエ ピンクリボン限定デザインのミニパック



→快適な暮らしを自分らしく送るために> QOLの向上:ピンクリボン活動を通じて女性の活躍を支援
www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2020-all.pdf#page=45

花王・ベトナム衛生プログラム QOLの向上 清潔で美しくすこやかな習慣

花王は、ベトナムにおける清潔・衛生習慣の定着に貢献するため、「ベトナム衛生プログラム」を実施しています。このプログラムは、「衛生管理リーダー育成プログラム」「衛生奨学金制度」「楽しい手洗い教室」「学校衛生プロジェクト」の4つの取り組みで構成されています。

衛生管理リーダー育成プログラム

病院内の感染管理・衛生環境の向上に向けた取り組みです。2019年は、ベトナムでのパートナーであるハノイ医科大学から関係者を日本に招き、日本の感染管理について紹介しました。その後、ハノイ医科大学病院では、スタッフの手指衛生の実態を確認するモニタリングや、スタッフへの研修実施を通じて、医療スタッフの手指衛生の徹底が図られており、病院内の感染管理で成果をあげています。

2020年には、これらの成果を発表して他の病院とも共有し、さらなる感染管理の取り組みを進めていく予定です。

衛生奨学金制度

ベトナムの保健衛生分野で活躍する食品衛生管理の専門家を育てることで、人々の健康な暮らしを実現していくことをめざしています。神奈川県立保健福祉大学と協力し、大学内に「花王衛生奨学基金」を設け、留学生に奨学金を提供しています。

初年度の留学生は、2018年10月に来日して神奈川県立保健福祉大学大学院修士課程で学んでおり、2019年10月には、病院や企業の食堂で調理現場の見学を行なうなど、順調に学びを深め、2020年3月に卒業を迎えました。

楽しい手洗い教室

2019年9月27日に、ハノイ市タインスアン区のニャンチン小学校で手洗いの大切さを伝える啓発イベントを実施しました。小学校1年生と2年生が参加し、手洗いの大切さや正しい手洗いについての話を聞いたあと、手洗いのダンスを踊り、意識を高めました。2020年からはハノイ医科大学との協働で、小学校での啓発活動をより広く展開し、将来を担う子どもたちのさらなる衛生意識の向上をめざします。

ユニセフ「学校衛生プロジェクト」を支援

経済格差の大きいベトナムでは、特に山間部や農村部、少数民族が多い地域の衛生環境が整っておらず、慢性の下痢疾患などで子どもたちの健康な発育が阻害されています。

花王は、2016年から、国連児童基金(ユニセフ)による学校衛生プロジェクトの活動を支援しています。

ベトナム南部・メコン川流域のアンザン省での成果を受け、2018年から少数民族が多い北部山岳地域、ディエンビエン省に支援を拡大しました。

2019年は、アンザン省で22校の衛生設備の改善、ディエンビエン省で1校に衛生設備を新設、4校と1コミュニティへ2基の水供給設備の設置を行なったほか、コミュニティリーダーによる啓発セッションを38村で実施しました。

また、遠隔地や緊急時にも安全な飲み水が手に入れられるよう、セラミックフィルター付き浄水器の設置支援を行っています。この支援は、日本の小学4年生に向けたプログラム「いっしょにエコ日記」と連動しており、日本の子どもたちの節水努力に応じてベトナムの小学校の教室に浄水器を届ける取り組みも組み込まれています。2019年までに370個の浄水器が届けられました。この取り組みは、地域行政の働きかけにより、好事例として支援対象校以外が独自に浄水器を購入して活用するといった形でも広がりを見せています。

2020年も、両省において、学校やコミュニティ主導の衛生環境改善や衛生習慣の促進を進めていきます。



浄水器の水を飲むディエンビエンの子どもたち

©UNICEF Viet Nam

月経教育・月経衛生環境向上への貢献

QOLの向上 清潔で美しくすこやかな習慣

日本の女子小中学生に向けた初経教育

花王は、1978年の生理用品の発売以来、40年以上にわたって、初経を迎える女の子たちとその家族や小学校に向けた初経教育の支援活動を行なっています。

日本では、月経やからだの変化についてまとめた啓発用小冊子と生理用品のサンプルをポーチに入れた初経教育セットを小学校に無償で提供しており、2017年からは公益財団法人日本学校保健会と連携し全国2万校への配布をめざして活動を拡大しました。

2019年は、11,766校へ配布しました。また、2018年に改訂した啓発用小冊子「からだのノート おとなになるということ」の音訳CDを日本の視覚支援学校67校と点字図書館92館に配布しました。

インドネシアの中学生に向けた月経衛生教育

2018年よりインドネシアにおいて、国連児童基金(ユニセフ)による「月経衛生管理プロジェクト」の支援を行なっています。

インドネシアでは、月経の正しい知識が十分に普及しておらず、4人に1人が初経までに月経の知識がなく、さまざまな迷信や偏見も依然として存在しています。また、学校における教育や衛生環境が十分に整っていないため、6人に1人が月経時に少なくとも1日は学校を休むという現実があり、女子生徒の出席率低下の一因になっています。

2年目となる2019年には、中学生向けの教育冊子を新た

に制作するため、バンテン州タンゲラン県をはじめとした複数地域の一般校とイスラム校で調査やテスト使用が行なわれました。月経にまつわる内容は地域や宗教、世代、教育水準によって感じ方や考え方の違いが大きいいため、教材には一層の配慮が必要で、細かな修正を繰り返しながら作業を進めました。11月28日には、「先生の日」(11月25日)に紐付けて、完成した教育冊子のお披露目とタンゲラン県の知事、教育機関への贈呈式が実施され、12月初旬からは、学校長や保健教員を対象に、冊子を活用した研修を開始しました。

このほか、5月28日の世界月経衛生の日にあわせて南ジャカルタ市で実施された啓発促進のためのイベントには、花王インドネシアの社員も出席するなど、社内でも課題への認識を一層深めながら活動に取り組んでいます。

2020年までに公立中学校40校にて男子生徒を含む12,000人以上の生徒へ授業を行ない、2,500人以上の行動変容をめざしています。



初経教育を行なう保健教員に向けたセミナー

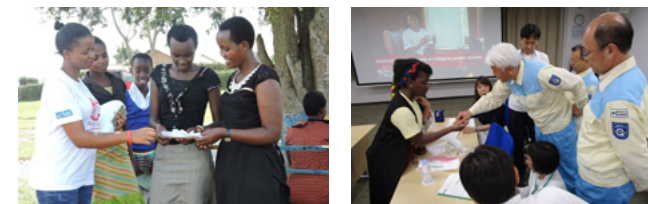
ウガンダ月経衛生環境向上プロジェクト

花王は、2019年2月より、国連人口基金(UNFPA)とパートナーシップを組み、ウガンダで低価格な国産生理用ナプキンの製造・販売をめざす若手社会起業家が立ち上げた企業「エコスマート」を支援しています。

アフリカには、貧困により生理用ナプキンを購入できず、使い古した布の切れ端や植物の葉などを代用している女性が多くいます。その結果、深刻な感染症にかかるケースが見られます。また、生理用ナプキンを使用できないために生じる衣類の汚れを気にして学校を休み、授業についていけなくなって退学することも少なくありません。

花王は、支援によりウガンダの女性が継続的に生理用ナプキンを使用できるようになり、月経期間をより衛生的で快適に過ごせるようになることを期待しています。月経期間中も休まず学校に通い、男女ともに等しく学べる環境は、社会全体のさらなる発展に寄与すると考えています。

2019年は8月にTICAD7に参加するために来日したCEOを、生理用品を製造する栃木工場に招くなど、モノづくりについての情報交換を行ないました。



(左)ウガンダの女性への生理用ナプキンの普及活動

(右)生理用品を製造する栃木工場での情報交換

社会貢献活動 417-1

情報のバリアフリー ユニバーサルプロダクトデザイン

花王は、日常生活に欠かせない製品を提供する企業として、社会に暮らすすべての人々が、分け隔てなく快適で豊かな日常生活を営んでいくことができるようにバリアフリーを推進し、その理解をめざす活動を行なっています。

特に情報化が進む中で取り残されがちな、視覚障がい者や高齢者に向けた情報のバリアフリーに取り組み、製品の点字シールの無償提供や生活情報を音声化して提供する取り組みを行なっています。

また、さまざまな障がいのある方々の生活の不便さを伝え、理解を図る内容のバリアフリービデオを学校等へ寄贈し、総合学習の教材として活用されています。

福祉施設への寄贈では、社会福祉協議会と連携し、選定した団体や社会福祉施設と民間が運営する滞在型施設に花王製品を寄贈し、お役立ていただいています。

2019年は、初経を迎える女の子たちとその家族や小学校に向けた初経教育の支援活動の一環として、情報が不足しがちな視覚に不自由のある子どもたちやそのご家族、教育関係者の方々に向けて、啓発用小冊子「からだのノート おとなになるということ」の音訳CDを作成し、日本全国の視覚支援学校67校と点字図書館92館、その他6件に配布しました。

また、点字シール(家庭品用／化粧品用)の無償提供121件、バリアフリービデオの寄贈3件、福祉施設への製品寄贈を2回実施しました。さらに、日本点字図書館が発行する点字・録音による生活情報誌「ホームライフ」12月号に対し、

生活情報の提供とともに、社員ボランティア2名が音声情報の収録に協力しました。

2020年以降も活動を継続していく予定です。



点字シール(家庭品用)



「からだのノート おとなになるということ」音訳CD

思いやりのある選択を社会のために

出張授業、教材提供による次世代育成

子どもたちが将来にわたって快適な暮らしを自分らしく送り、サステナブルな社会をともに実現できるように、「自分のことを自分でできるようになる」「広く社会のことに関心を持ち、自分たちにできることにチャレンジする」の2つの視点でプログラムを用意し、さまざまな次世代育成活動に取り組んでいます。具体的には、社員が講師となって学校を訪問し、「手洗い講座」「おそうじ講座」を行なっています。

また、子どもたちの理解を深めるために、「清潔」「健康」「環境」分野での教材を提供し、先生方に活用いただく活動も行なっています。

2019年度は、出張授業2講座を計54校で実施。3,702人の児童が受講し、338人の社員が講師およびサポート担当として参加しました。

また、2020年度から順次変更される「学習指導要領」に対応し、既存のコンテンツにアクティブラーニングの要素を加えるなどの改訂を行ないつつ、ESG視点を加味した新たな「ごみゼロチャレンジプログラム」を開発し検証授業を行ないました。

一方、2018年に引き続き、ろう学校でも「手洗い講座」を実施し、2校で児童69人が受講、社員15人が参加しました。2019年度は新たに特別支援学校(知的障がいの児童対象)でも特例子会社ピオニー(株)の社員とともに「手洗い講座」を実

清潔で美しくすやかな習慣

サステナブルなライフスタイルの推進

施し、2校で児童生徒26人が受講、社員17人が参加しました。

また幼稚園や保育園でも、継続的に「手洗い講座」を行なっており、2019年度は東阪名を中心に164園、12,368人の園児たちが「あわあわてあらいのうた」とともに正しい手の洗い方を楽しく学びました。



「手洗い講座」で社員の講師から楽しく手洗いの方法を学ぶ子どもたち

2019年実績

出張授業

種類	対象	実績
手洗い講座	小学校低学年	33校/2,244人(参加社員189人)
おそうじ講座	小学校低学年	21校/1,458人(参加社員149人)
計		54校/3,702人(参加社員数338人)

※ 環境講座は、プログラム改訂のため2019年度非実施

教材提供

種類	対象	実績
手洗い講座「手洗いの時間」	小学校低学年	156校
おそうじ講座「お家のおしごと」	小学校低学年	23校
いっしょにエコ日記	小学校4年生	204校
環境のことを考えた快適な暮らし	中学校技術・家庭科	39校
よりよい衣生活と環境の創造をめざして	高等学校家庭科	43校
計		465校

社会貢献活動 413-1

工場・ミュージアム見学を通じた 学校教育支援

清潔で美しくすやかな習慣

サステナブルなライフスタイルの推進

生活に身近な商品を生産、提供する企業として、モノづくりの工夫や品質、安全・安心のための努力、環境への配慮を学んでもらうため、ミュージアムや工場見学を通じた学校教育の支援を行なっています。

特に、小学校の社会科単元(3年:働く人と私たちの暮らし、5年:私たちの生活と工業生産)に連動したプログラムを開発し、事前・事後の学習も含めた教材の提供、工場見学を含む、学習型の社会科見学プログラムを実施しています。プログラムを通して、子どもたちが社会との結びつきに気づき、自ら考える力を育むことをめざしています。

2019年は、国内9工場で6.1万人の工場見学を受け入れた中、286校1.9万人の小学生が社会科見学プログラムを受講しました。

工場の特徴に合わせてプログラムの内容は異なりますが、環境やモノづくりの工夫について学習するとともに、内容に合わせて、泡立ち実験、汚れ落ちメカニズム実験やスキンケアクリームづくり体験などを行なっています。和歌山では、社員に小学生がインタビューする時間も設定しています。参加した小学生からは「機械を間近で見られて驚いた」「多くの努力と工夫で地球にやさしい工場になるんだと感じた」「理科をもっと勉強して研究する人になりたい」「また来たい」などの感想がありました。



親子見学会での実験の様子

花王国際こども環境絵画コンテスト

サステナブルなライフスタイルの推進

花王では、世界の子どもたちに、身近な生活のエコと地球の環境・未来について真剣に考え、絵画として表現してもらい、それを多くの人たちに伝えることで、暮らしの中で環境を考えて行動する“いっしょにeco”が、世界中の人たちに広がることを願い、2010年から「花王国際こども環境絵画コンテスト」を行なっています。

第10回コンテストの実施

2019年は、世界中の子どもたちから、16,552点(日本446点、アジア・太平洋15,005点、米州114点、欧州428点、中東548点、アフリカ11点)の応募があり、これまでで最多の応募数となりました。花王のデザイナーによる予備審査を経て、社内外審査員による最終審査が行なわれ、“いっしょにeco”地球大賞1点、“いっしょにeco”花王賞8点、優秀

賞<審査員推薦作品>7点、優秀賞16点が決まりました。入賞作品32点は、12月に開催された「エコプロ2019」の花王ブースにて展示され、多くの来場者が鑑賞しました。最終日には上位入賞者9名を招待して表彰式を行ない、その後のトークセッションでは、各国の受賞者から、自分の暮らす地域の環境や、絵に込めた思いが語られました。



表彰式での記念写真

NPO・行政・ビジネスパートナーと協働した絵画展示活動

世界の子どもたちの絵とそこに込められた思いやメッセージを多くの人に伝えるために、これまでの入賞作品の展示活動を積極的に進めています。

社内では、茅場町、すみだ、大阪事業場にて、入賞作品の期間展示を実施しました。品川・有田両研修所では、常設展示を開始しました。また中国、インドネシア、タイ、ベトナムのオフィスでも展示を行ない、多くの社員が鑑賞しました。さらに、日本の全10工場、花王(インドネシア)のカラワン工場、上海花王の工場では、来場者・見学者に見ていただ

社会貢献活動 413-1

るように、常設展示を行ない、約5万人が鑑賞しました。

社外では、NPO 法人ビーグッドカフェを事務局として、日本全国の行政が運営する環境関連施設やNGO / NPO、教育施設などに絵画を無料で貸し出す活動が3年目を迎え、2019年の貸出先は、のべ18施設・団体に拡大し、来場者数の合計は、4万人を超えました。

さらに、花王グループカスタマーマーケティング(株)では、ビジネスパートナーや行政と共同で開催する環境イベントのうち、14カ所で絵画展示を行ないました。花王(中国)投資、花王(台湾)でも、各地域での環境啓発キャンペーン活動に、絵画展示を盛り込んでいます。



花王(台湾)の環境啓発イベント(4月・台北Eslite Underground Book Street)

絵画を活用したワークショップの開発

世界の子どもの絵とそこに込められた思いを、さらに深く伝えて、より効果的な環境啓発に活かすために、絵画を利用したワークショップコンテンツを開発しています。毎日新聞社主催「学びのフェス」や自治体の環境講座などで、

絵画カードを制作して、環境意識啓発につなげたり、絵を描いてみたりするワークショップに取り組み、改良を重ねています。

ダイレクトコミュニケーションによる環境教育・啓発活動

サステナブルなライフスタイルの推進

次代を担う生活者の環境意識を高めることは、地球環境のためにも、社会のためにも、また花王にとっても、非常に重要です。そのため、年代や地域に合わせた効果的なアプローチを考えながら体験型啓発活動を進めています。

多者協働による体験型環境教育プログラムのさらなる展開

花王と味の素(株)、(株)イースクエアが設立した「食とくらしのサステナブル・ライフスタイル研究会」は、川崎市と共同で、川崎市の小学5年生とその保護者22組を対象に、3日間の体験型環境教育プログラム「食とくらしがつくる地球の未来 みんなでいっしょに考えよう～夏休みチャレンジ～」を開催しました。2016年から開始して2019年は4年目になりました。川崎市の環境施設や花王と味の素の工場での、見学・体験やワークショップ、約4週間の環境日記等を通じて、くらしと環境課題とのつながりを考え、ライフスタイルを見直していく内容で、子どもとともに保護者の意識変化もねらいとしています。2019年は、大学生の参画を強化して、参加小学生、保護者に加えて、大学生の意識向上も図りました。

また、2018年のプログラム参加者の有志4名が、2019年2月、川崎市教職員主催の「子どもエネルギー・環境ワークショップin川崎」(2018年度地球温暖化防止活動環境大臣賞受賞)に特別参加して、本プログラムでの成果を発表し、先生方からは高い評価をいただきました。

2019年は、プログラムの効果測定にも取り組み、プログラムの拡散を図るため、企業のCSR/CSV担当者向けセミナーや、CC川崎エコ会議、ESD推進ネットワーク全国フォーラム等で、積極的に成果の発信も行ないました。



参加者の記念写真(プログラム2日目・花王川崎工場)

エコプロ2019での啓発活動

花王は、12月5日～7日の3日間、東京ビッグサイトで開催された「エコプロ2019」に出展しました。2019年は、生活者に、花王のkirei Lifestyle Planを知っていただくために、「アタックZEROの開発」と「プラスチック削減の取り組み」の2つの事例に焦点をしぼり、これらの活動が、地球のどのような環境課題につながっているのか、花王がどの

社会貢献活動 203-1,413-1

ように解決しようとしているのかを具体的に、小学生にも理解できるストーリーにして伝えました。来場者は、テーマパークのアトラクションのようなブースを楽しく回りながら、現在の環境課題を学び、花王の取り組みを知り、さらに自分にできることを考えて自分ごと化するとともに、花王のESG戦略であるKirei Lifestyle Planへの理解を深めました。花王ブースへの来場者は1,500人を超え、来場アンケートでは、90%以上が「楽しかった」「花王のKirei Lifestyle Planを理解できた」と回答しました。



多くの来場者でにぎわう花王ブース

花王エコラボミュージアムでのコミュニケーション活動

花王エコラボミュージアムでは、体験型コンテンツを活用しながら、生活者をはじめとするあらゆるステークホルダーとの直接対話を年間を通じて行なっています。

2019年には、文部科学省・環境省が、持続可能な開発のための教育(ESD)推進のために構築を進めている「ESD推進ネットワーク」の「地域ESD活動推進拠点」として登録されました。

当活動は、令和元年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰を「対策活動実践・普及部門」で受賞しており、和歌山県が主催する「第18回わかやま環境賞」においても「わかやま環境大賞」に選定されています。

2019年の年間来場者数は約11,200人でした。

流通や行政との共同イベントを通じた環境コミュニケーション

花王グループカスタマーマーケティング(株)は、花王製品の環境価値を消費者に伝え、“いっしょにeco”を推進していくために、「節水・節電・ごみ削減」をテーマに、流通や行政とともに、さまざまな環境イベントを実施しています。「花王国際こども環境絵画コンテスト」の入賞作品の展示や、多彩で楽しい体験型イベントで、消費者の関心を高めています。2019年は、日本全国約70カ所の会場でイベントを開催し、来場者は4万人を超えました。また、流通との共同で、SNSを通じた「きれいをつくるecoスタイル」の情報発信も積極的に行ないました。

未来洗浄研究会

サステナブルなライフスタイルの推進

2018年に、花王とフューチャーアース、東京大学 国際高等研究所サステナビリティ学連携研究機構(現:東京大学 未来ビジョン研究センター)が設立した「未来洗浄研究会」は、「世界中の人々がサステナブルに清潔に快適に暮らせる社会」をめざし、事業領域や学問領域の枠を越え、産学公民

等のさまざまな知恵を集めて、未来の洗浄について議論や提案をしています。

2019年12月には、未来洗浄研究会セミナー「サステナブルな洗濯を考える(1)～ライフサイクルアセスメント(LCA)の視点から～」を開催しました。参加者は、企業、大学・研究関係者、環境団体や主婦など、約40名でした。洗濯に関するLCAについての講演と、所属が偏らないよう配慮したグループでのディスカッションにより、LCAの考え方を取り込みながら、洗濯の環境課題を自分ごととして捉える議論が進み、参加者からも好評を得ました。



グループディスカッションの様子

中国節水キャンペーン

サステナブルなライフスタイルの推進

花王(中国)投資は、中国環境保護部宣伝教育センターと共催で2012年から「中国清潔・節水全国運動」を実施しています。

社会貢献活動 203-1

この活動は、中国国内において「1世帯1年間1万リットルの節水(中国語表記:一家一年一万升)」をスローガンに節水を呼びかけるものです。中国では水資源の不足が大きな社会問題となっており、節水の大切さを喚起したい中国政府と、節水型衣料用洗剤を販売するなど、中国においても消費者といっしょにできるエコ活動を推進している花王の思いが一致し、8年連続の共催となりました。

毎年3月からはじまるキャンペーンでは、各都市で節水や水資源の大切さを紹介しています。2015年からは活動を拡大し、中国国内の大学での啓発も推進しています。2019年は北京、広州、西安、安徽省、浙江省、山東省など24の省・市の98の大学で啓発活動を実施しました。

また、2015年から中国国内の大学生向けに環境保護コンテストを実施しています。2019年は、節水・環境保護をテーマにしたコンテストに全国から145件の提案をいただき、この中から花王は65件を選択して実施につなげました。大学生が自ら積極的に提案、実行しており、コンテストを通して環境意識の向上が見られました。10月には、江西省南昌市の大学で閉幕式を行ない、入選者を表彰しました。

花王社会起業塾

花王は、持続可能なよりよい社会を次世代に引き継ぎたいと考え、2010年より、社会課題をビジネスの手法で解決しようとする若手社会起業家の育成を支援する「花王社会起業塾」を実施しています。

「これからの新しい生活文化をつくる」をテーマに、生活者に寄り添い、よりよい暮らしに向けた基盤づくりに取り組む社会起業家を支援しており、約8カ月にわたり、専門家からのアドバイスを受ける機会や合同研修、人的交流・ネットワークの場を提供し、事業の軸をつくり、成長を加速させる支援を行なっています。なお、運営は社会起業塾イニシアティブ(認定特定非営利活動法人ETIC、＜エティック＞と複数企業※が連携して社会起業家を育成・支援するプラットフォーム)が行なっています。(これまでに29組を支援)

2019年度は以下の3名を支援しました。

- ・荒井佑介さん(特定非営利活動法人サンカクシャ 代表理事)
「孤立する子ども・若者と社会資源のマッチングシステム」
- ・荏原優子さん
「地方での機会創出する場としての多世代交流複合拠点づくり」
- ・角田真住さん(Alopecia Style Project Japan 共同代表)
「違いを受け止めあえる関係を、髪を失った女性が自ら作り上げる」

よりよい社会をつくる担い手を育てることに加え、近年は社会起業家たちと社員の交流活動に注力しています。社会課題解決に向けた熱い思いや事業戦略の立て方など、さまざまな気づきや学びを得る場を開いてきました。

2019年度は、8月28日に初めてNECとの2社合同開催で「社会起業塾キックオフ研修講演会」を茅場町本社で開催し、109名が参加しました。11月8日には、「2018年度成果報告と2019年度塾生の活動紹介&アイデア交換会」を実施し、遠隔地視聴2名含む45名が参加し、社員と社会起業家が交流を図りました。

これからも社会や社員にインパクトを与える活動を進めていきます。



社員と若手社会起業家とのアイデア交換会

※ 2019年度のオフィシャルパートナーはNEC、花王。オフィシャルプログラムパートナーは電通

社会貢献活動

高校生科学技術チャレンジ(JSEC)

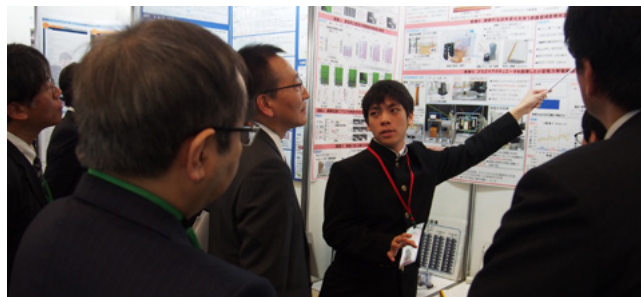
花王は、“よきモノづくり”の基盤は科学技術から生まれる革新的なイノベーションであると考え、よりよい未来に貢献するために、若い研究者の育成を応援しています。その一環として、全国の高校生・高等専門学校生を対象として開催される科学技術に関する自由研究コンテスト「高校生科学技術チャレンジ(JSEC)」(主催:朝日新聞社、テレビ朝日)に特別協賛しています。毎年優れた作品に、花王賞および花王特別奨励賞を贈呈しており、賞の選定にあたっては、花王の研究員が論文の審査から、最終審査会では実際に高校生のプレゼンテーションを聞いて審査を行ないます。

「JSEC2019」の最終審査会は、2019年12月14日、15日に日本科学未来館で行なわれ、花王賞として、福島県立福島高等学校、花王特別奨励賞として熊本県立宇土高等学校、鳥取県立鳥取西高等学校が受賞しました。JSECの上位入賞者は、2020年に米国で行なわれる国際学生科学技術フェア(ISEF)への出場資格が与えられ、花王賞の福島県立福島高等学校の石川悠さん、横山佳観さんが出場する予定です。その他、受賞校を花王に招き、施設見学や研究員との交流を図るスタディツアーを開催して、高校生のキャリア教育支援にもつなげています。

- ・花王賞:
「プラズマによる気流制御技術を用いた小型風力発電風車の製作」
福島県立福島高等学校(石川悠さん、横山佳観さん)
- ・花王特別奨励賞:
「屈折率の研究3 Zゾーンの全容解明と屈折率アプリによる糖度の可視化」
熊本県立宇土高等学校(窪田瑛仁さん、吉野泰生さん、四海成々実さん)
「スナヤツメ(Lethnaron.sp)のアンモシーテス幼生に見られるLip Sway行動」
鳥取県立鳥取西高等学校(松本生成さん、久野伊織さん、田中宏紀さん)



花王賞の表彰状授与



高校生の研究発表を審査する花王の研究員たち

一般社団法人 日本ボッチャ協会に協賛

2019年6月、新たな取り組みとして、(一社)日本ボッチャ協会のゴールドパートナー契約を締結しました。ボッチャは、重度脳性麻痺者、もしくは同程度の四肢重度機能障がい者のために考案されたスポーツで、性別や年齢、障がいの有無にかかわらず、誰もが楽しむことができます。共生社会の理解浸透に向け、障がい者スポーツを通じ、社内外に向けた競技の啓発活動を行ない、競技の普及と振興に努めていきます。

2019年は、社内向けの啓発活動として、日本ボッチャ協会スタッフによる講習会を社内で2回開催し、のべ82名の社員が参加しました。今後、受講した社員がサポーターとなり、競技の普及に協力していきます。



社内で行なわれたボッチャの講習会

よりすこやかな地球のために

タイ北部“FURUSATO”環境保全プロジェクト 脱炭素

タイ北部における急激な森林減少・破壊と、それが引き起こす水害・煙害等の環境問題の改善をめざし、花王は公益財団法人オイスカ、オイスカタイランドとの協働で、2012年から5年間、タイ北部チェンライ県チェンコン郡で、環境保全プロジェクトを実施しています。2012年からの5年間で、目標としていた35haに42,500本の植林を完了しました。

活動を通じて、地域の人々の環境保全に対する意識が高まり、森を適切に管理し、生活の基盤づくりに活かそうという機運が生まれたことから、2019年4月より、第2期の支援を開始しました。

第1期に植林した地域で作物の栽培を行ない、地域の人々に栽培に関する知識や技術の取得の機会を提供して、収穫した作物の販売による収入向上を支援します。また、新たな地域での植林も実施します。こうした活動を通して、地域の人々の生活の中で、形成された森林が持続的に維持、活用されることをめざします。

第2期では、3年で9haの植林を行ないます。また、第1期で形成した森林のうち約1.6haの土地で、アグロフォレストリーとして、タケノコ、しょうが、バナナなどの作物を栽培します。



第1期で植林した木々が成長した森林

花王・教員フェローシップ

花王は、2004年から認定特定非営利活動法人アースウォッチ・ジャパンとともに、「花王・教員フェローシップ」を実施しています。これは小学校・中学校の教員を対象にしたプログラムで、夏休み期間に1～2週間程度、生物多様性保全に向けた海外の野外調査研究にボランティアとして参加する機会を提供するものです。参加した教員の方々に、自らの体験や感動を学校や地域での環境教育の現場で活かしてもらうことを目的としています。また、参加者同士のネットワークづくりや科学的な調査技法の習得、異文化交流、多様性の理解など、プログラムを通じて得た経験を、児童や生徒、教員同士、地域社会に広く伝えてもらうことを期待しています。

これまでに85プロジェクトに168名が参加しました。2019年の実施をもって当プログラムを終了し、後日、プログラムの成果を取りまとめ、広く発信していく予定です。

花王・みんなの森づくり活動 脱炭素

緑豊かな環境づくりと、その環境を次世代に引き継ぐことを目的に、公益財団法人都市緑化機構と連携し、環境を守り育てる人づくりのための助成プログラムを実施しています。全国から森づくりや環境教育などに取り組むNGO／NPO・市民団体を公募し、毎年20件程度を選定、3年間の継続助成を行なっています。また、環境保全活動を通じて、現代の地域社会が抱えるさまざまな課題解決への貢献や、地域のよりよいコミュニティ形成にも寄与しています。

2019年は、2018年に応募した団体から、17団体を選定して助成を行ない、6月6日には花王本社にて、助成目録贈呈式を実施しました。

2000年から2019年までに支援した団体数は累計で479件となり、これは都道府県が把握する森づくり団体数約3,000の15%弱に相当します。



支援団体の活動の様子

社会貢献活動

社員の社会参画による創造性の活性

花王ファミリーコンサート

花王では、事業場周辺地域の皆さまに質の高い音楽に触れる機会の提供と音楽や芸術を楽しむ心を育んでいただきたいとの思いから、2002年より、「花王ファミリーコンサート」を開催しています。

このコンサートは、地域貢献と文化支援、社会支援を融合した花王ならではのプログラムで、企画から当日の会場整理、会場アナウンス、切符切り等の運営をすべて社員が行なっています。

2019年は、4月21日に栃木県益子町、5月19日に和歌山県和歌山市、9月16日に山形県酒田市、11月17日に愛媛県西条市にて開催しました。

チケット収入は全額、開催地域の音楽教育へ寄付しています。

2002年からの累計で44公演を開催し、のべ来場者数は、41,327人となっています。



栃木県益子町での花王ファミリーコンサート

社員食堂を活用した環境意識啓発

2019年は、社員の環境やサステナビリティに対する意識を高めるための気づきやきっかけを与える場として、社員食堂の有効活用を進めました。

茅場町では4月から、食堂喫茶コーナーで提供するコーヒーを、フェアトレード認証コーヒーとレインフォレストアライアンス認証コーヒーに切り替えました。また10月からは、プラスチック製ストローとカップ蓋も廃止。さらに、マイボトル・マイカップを持参すると価格を下げる取り組みも始め、マイボトル・マイカップ推進を進めています。

すみだでは、飲料プラ容器の削減に加えて、ガムシロップやミルク、小袋調味料等を、ポットでの提供に変更しました。和歌山でも、プラスチック容器の削減や、認証食材の導入を積極的に進めています。

社員が毎日のように利用する社員食堂でこういった取り組みを進めることにより、社員一人ひとりが会社の姿勢を理解し、身近なところから環境意識を高めて、家庭での行動変容にもつなげることを狙いとし、さらには、環境意識の向上が、業務にも活かされることを期待しています。

花王ハートポケット倶楽部

2004年に開始した花王社員による社会的支援を目的としたクラブ組織です。趣旨に賛同する社員が会員となり、毎月の給与から1口50円から100口の範囲で任意の金額を積み立て、NGO／NPO・市民団体への寄付、社員が参加するボランティア活動の実施に関わる支援、広域災害発生時の緊急支援などに役立てています。寄付先や基金の使途の決定は、会員の代表である15名の運営委員で構成される運営委員会で決定する仕組みになっています。よりよい社会づくりをめざし、社会課題解決に取り組む活動へ支援を行なうとともに、社員に対しては社会参加の機会を提供し、社会的感度を高めることに寄与しています。

2019年は、運営委員とともに寄付先団体を訪問し、意見交換の場を設ける等、社員を巻き込んだ活動を実施し、社内向け広報誌(イントラネット版)「ハートポケット倶楽部新聞」(年5回発行)で紹介しました。また、栃木事業場にて認定特定非営利活動法人ウォーターエイドジャパンの高橋郁氏による講演会を開催する等、社員への情報発信や参加活動を強化したことにより、運営委員の立候補者数や会員からの寄付申請が倍増しました。その他、事業場地域の市民活動を応援する「地域助成」を栃木県、和歌山県、茨城県で実施し、計15団体へ助成しました。例年実施している「絵本を届ける運動」「クリスマスカードプロジェクト」「ホワイトリボンラン」では、計513名の社員がボランティア活動に参加しました。

社会貢献活動

今後も引き続き、会員増大と社員の社会参加のためのきっかけづくりを行なっていきます。

- ・会員数3,463名(2019年12月20日現在)
- ・寄付件数47件 / 寄付金額7,248,400円
※ 緊急災害支援として実施した令和元年東日本台風被害に対する寄付50万円を含む
- ・活動レポート4,000部(社内向け活動報告書、年1回発行)



寄付先団体による講演会にはたくさんの社員が来場



花王ハートポケット倶楽部新聞に運営委員のレポートを掲載

メセナ支援

芸術文化活動支援

優れた芸術文化の発展・継承と人々の豊かな生活文化の実現に寄与することを目的に芸術文化活動を支援しています。

交響楽団への賛助や音楽・舞台芸術公演、美術展への協賛を行なうなど、あらゆる世代の人々に芸術に親しんでいただき、次世代に優れた芸術文化活動が継承されるよう、積極的に支援を行なっています。

2019年は、NHK交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団への賛助を行ない、NHK交響楽団 ベートーヴェン「第九」公演と新国立劇場 2018/2019シーズン特別支援企業グループ協賛を行ないました。また、美術分野においては、読売新聞社主催の「日本・オーストリア外交樹立150周年記念ウィーン・モダン クリムト、シーレ 世紀末への道」(東京と大阪で開催)への協賛を行ないました。

若手芸術家育成支援

豊かな生活文化の実現に貢献するために、次世代を担う芸術家育成の活動を支援しています。

2003年からは、東京音楽コンクール(共催:東京文化会館・読売新聞社・東京都)を主催し、日本の音楽界の次世代を担う人材の発掘・育成の活動を支援しています。本各部門優

勝者がオーケストラと共演する優勝者コンサートを開催するほか、入賞者には、単独公演の開催を含め、公演機会の提供など、東京文化会館が5年間バックアップを行なっています。

また、2013年からは、熊川哲也氏を総監督とするジュニア・カンパニー-K-BALLET YOUTHの公演に特別協賛しています。K-BALLET YOUTHでは、次世代の才能あるダンサーの発掘とプロフェッショナル・カンパニーと遜色のない環境での実践の場を提供し、次世代の芸術家育成に取り組む活動をしています。

2019年は、「第17回東京音楽コンクール」を開催し、ピアノ・金管・声楽の3部門において、402人の応募者の中から14人の入賞者が決定しました。

K-BALLET YOUTHでは、8月に第4回記念公演「くるみ割り人形」が開催され、特別協賛を行ないました。2018年9月のオーディションで選ばれた80人のダンサーが、約1年間のリハーサルを経て、公演に出演しました。



第17回東京音楽コンクール ピアノ部門表彰式

写真:堀田力丸/写真提供:東京文化会館

社会貢献活動

公益財団法人 花王芸術・科学財団

花王芸術・科学財団は、豊かな生活を営んでいく上で必要不可欠な芸術文化と科学技術の振興および発展向上とともに、文理融合領域の研究発展にも寄与することをめざす、芸術と科学の支援を併せ持つユニークな財団です。

1990年に、花王株式会社の創立100周年を記念した拠出を受け、花王芸術文化財団として設立され、美術・音楽分野への助成事業を行なってきました。1997年からは、名称を花王芸術・科学財団に改称して、科学技術分野の研究や文理融合分野の研究支援を新たに加え、「助成事業」「顕彰事業」「関連事業（文理融合の研究支援）」の3つの事業を柱に活動をしています。

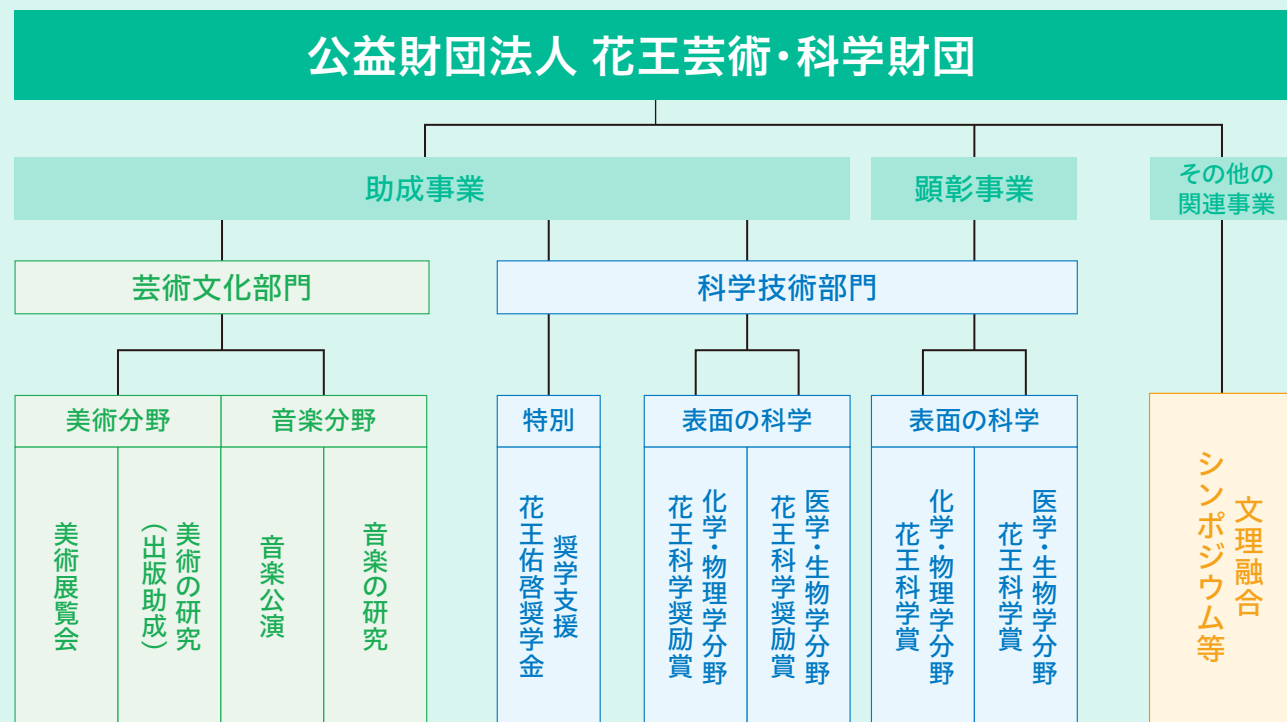
助成事業では、美術展覧会や音楽公演等の活動助成、美術や音楽の学術的な研究への助成を、科学技術部門では大学院修士課程の学生に対する奨学金支援や、化学・物理学、医学・生物学の分野で独創的、先導的な研究を行なう若い研究者に対し「花王科学奨励賞」という名の助成を行なっています。

顕彰事業では、化学・物理学、医学・生物学の基礎・基盤研究において独自の成果をあげた研究者に「花王科学賞」を贈り、称えています。

また、関連事業として、芸術文化と科学技術の融合をめざす研究を支援する文理融合シンポジウムを開催しています。

2019年は、助成事業として103件、顕彰事業として2名の研究者を顕彰し、総額7,920万円の拠出を行ないました。

事業組織図



※2019年12月現在



花王科学賞の表彰状授与



花王科学賞受賞者による記念講演

社会貢献活動

災害支援

東日本大震災への取り組み

既存の社会貢献のプログラムや花王のリソースを活かしながら、NGO／NPO、企業、多様な組織と連携し、東北の生活者に寄り添い、現地のニーズや課題に沿った活動を実施しています。

現在は「心のケア」と「自立的復興」の2つの柱に取り組んでいます。「心のケア」では、スマイルとうほくプロジェクトに2012年から協賛し、仮設住宅や災害公営住宅訪問を通じた交流や新しい暮らしを応援する取り組みを実施しています。「自立的復興」では、東北の復興に向け、中心となって活躍している復興リーダーの支援や社員ボランティアの活動を通じて、産業の復興やコミュニティづくりを支える活動を行なっています。

花王社員による2019年の活動は以下の通りです。

- ・「東北と『食』でつながろう！」をテーマに、3月11日～13日、全国事業場11カ所の食堂で、東北の食材を使用した郷土料理を提供。同時期に、復興支援活動のパネルを展示（全国事業場11カ所およびKCMK東北支社）
- ・宮城県南三陸町ボランティア&スタディツアーを11月30日～12月1日に実施、社員18名が参加
- ・スマイルとうほくプロジェクト（主催：岩手日報、河北新報、福島民報）に継続して協賛

・復興支援、震災の記憶を未来に残していくことを目的とした自転車イベント「TOUR de TOHOKU 2019」に協賛し、花王社員がボランティア・ライダーとして参加したほか、特製フォトブースを設営したり、メッセージ入り商品をプレゼントし地域を応援。社員のべ22名が参加

・岩手県釜石市が中心となり世界へ復興支援への感謝を伝える活動「Thank You From KAMAISHI」を支援。三陸鉄道鵜住居駅開業やラグビーワールドカップ2019釜石鵜住居復興スタジアム開催などのイベントをさまざまな形でサポート。イベント支援、スタジアム清掃などで社員のべ49名が参加

・被災地各地でのフラワーアートの制作や農業体験などのプロジェクトを通じて東北のいまの思いに寄り添う活動をサポートし、花植え、種まき、収穫祭などに社員のべ47名が参加



台風で被害を受けた菊畑の復旧作業（南三陸町でのボランティア）

みちのく復興事業パートナーズ

「自立的復興」の大きな活動の一つとして、2012年6月より、「みちのく復興事業パートナーズ」に参画しています。被災地で事業に取り組み東北を支えていく次世代の復興リーダーを支援する企業コンソーシアムとして、認定特定非営利活動法人ETIC（エティック）によって設立されたもので、現在、企業4社※が参画しています。将来東北の中心となることが期待される事業団体を育成支援する研修をはじめ、自立的復興に向けた共創を行なっています。

2019年は3月5日に7回目となるシンポジウムを開催し、「東北から、パラダイムシフト」をテーマとして東北の現状や未来について広く情報発信を行ない、152人が来場しました。また、東北の事業団体へ向けた共創の場づくりの一環として、2020年1月17日～18日、宮城県仙台市において「みちのく共創キャンプ2020」を実施し、69人が参加しました。これからも継続して活動していきます。

※ 参画企業は株式会社ジェー・シー・ビー、株式会社電通、株式会社ベネッセコーポレーション、花王株式会社（2019年5月現在）



第7回みちのく復興事業シンポジウム

社会貢献活動

東日本グリーン復興モニタリングプロジェクト

東日本大震災で津波の被害を受けた地域の生態系の変化を調べるため、東北大学の教授を中心として、市民や学生、複数の企業から集まったボランティアたちがチームとなってモニタリング調査を行なっています。被災前のデータと比較することで、津波がどれだけの影響を及ぼしたか、またその後の生態系がどのように回復しているかを記録しています。この調査で得られたデータは、被災地域の生態系や希少種の保全、環境に配慮した復興計画のために役立てられます。2013年から社員がボランティアとして参加しており、2019年は10人の花王社員が参加。これまでに累計68人が参加しました。

参加者からは「津波前からの過去データと比較して環境変化や問題点がわかり、継続した干潟調査の必要性を知ることができた」「震災の経験と復興の進捗を見ておられる方の視点を共有できたことも自分自身の財産となった」などの感想が寄せられました。

今後、2020年まで、社員を派遣する予定です。

(主催:認定特定非営利活動法人アースウォッチ・ジャパン)



採取した生物の同定調査

その他の災害支援

大規模災害発生時の被災地支援として、義援金と支援金の拠出を行なうとともに、行政や業界団体と連携して、被災者への物資支援を速やかに行ないます。

また、近年の災害多発に伴い、最も必要なタイミングで被災者支援活動に活用できるよう、社会福祉法人中央共同募金会「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」への支援金の拠出を決定しました。

2019年の実績

義援金・支援金

・令和元年東日本台風

日本赤十字社を通じて花王より義援金として2,000万円と、花王社員の寄付組織「花王ハートポケット倶楽部」より、ボランティア活動資金として社会福祉法人 中央共同募金会に50万円の寄付を行ないました。

物資支援

・令和元年房総半島台風

花王より千葉県富津市へ約10万円相当の物資支援を行ないました。

・令和元年東日本台風

花王より福島県、長野県、岩手県、宮城県、栃木県、千葉県へ約900万円相当の物資支援を行ないました。

・タイ ウボンラチャタニ県洪水

花王タイより、約10万円相当の物資支援を行ないました。

・インドネシア パプア州センタニ洪水

花王インドネシアより、約6万円相当の物資支援を行ないました。

・インドネシア マルク州アンボン地震

花王インドネシアより、約4万円相当の物資支援を行ないました。

・アフリカ南部干ばつ

花王南アフリカより、農民救済のため約2万円相当の物資支援を行ないました。

基盤整備活動支援金

・災害ボランティア・NPO活動サポート募金への寄付

花王より社会福祉法人 中央共同募金会「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」へ500万円の寄付を行ないました。